



泉北ニュータウンにおける グリーンインフラを構成する緑地のストック評価に関する研究

緑地計画学 成田和子

研究の目的および背景

■研究の背景

- ・泉北ニュータウンは緑地計画に重点が置かれ、既存林の保全を図りながら公園緑地が体系的に整備されてきた。
- ・建設後50年を迎え、成熟した緑豊かな環境とともに、緑道を中心とした歩行者ネットワークが住民からも高い評価を得ており、良好な住環境が形成されている。
- ・更新時期を迎え、建替え等によって緑が失われる危険性がある。
- ・緑地計画を活かし、泉北らしいライフスタイルを確立するためのグリーンインフラの再構築を図る絶好の機会でもある。



研究の目的および背景

■研究の目的

地形構造や土地利用といった物理的な側面と、親密性や景観性といった社会的側面の4指標から緑地ストックを多角的に評価する。

緑地を生活の基盤施設として着目し、ニュータウンでの自然再生や自然と共生したライフスタイル等の確立を支えるグリーンインフラの再構築のための有効な知見を得ることを目的とした。



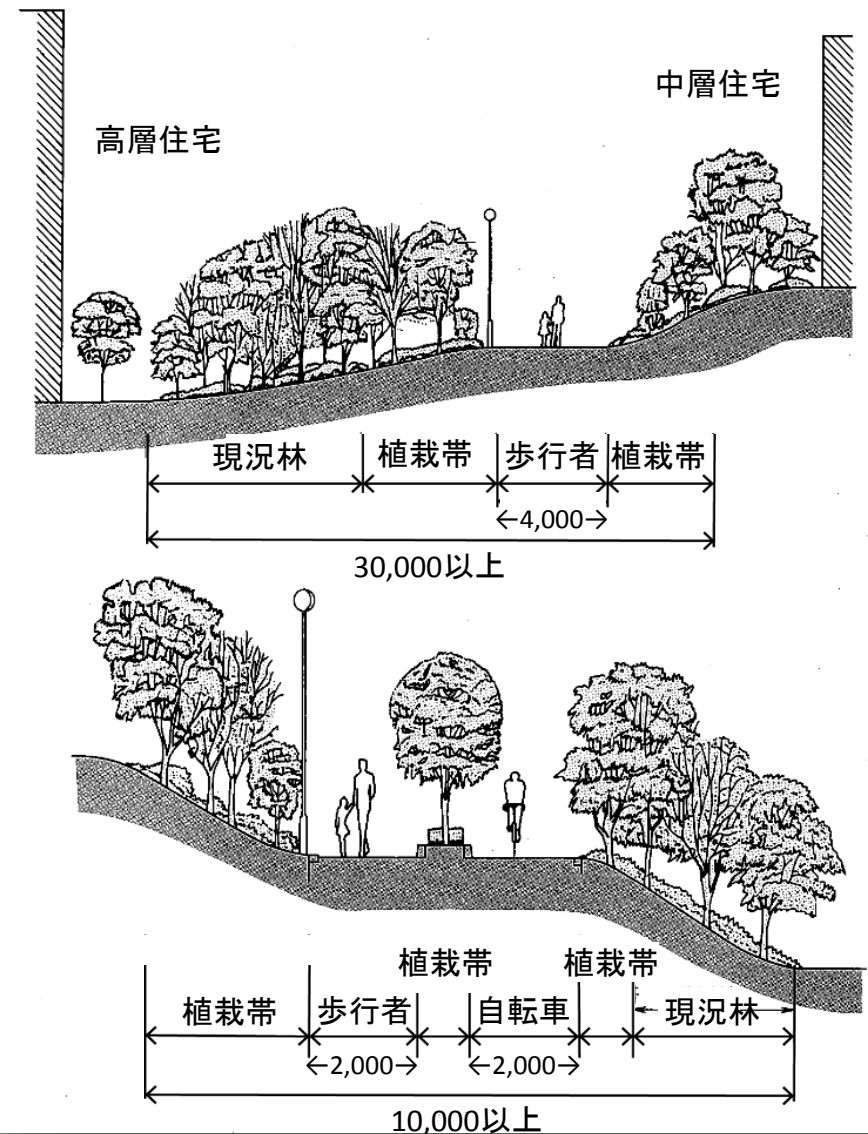
緑地計画の思想

- ・大きな造成改変をせず、既存の丘陵地の自然状況に極力沿った計画を行う
- ・公園緑地と集合住宅地内に既存林を保存し配置する
- ・緑道は各公園緑地をつなぐだけでなく、生活動線も考慮しながら公園や保存林、水面も含めた一体的な緑のネットワークを形成
- ・緑道内に既存林を取り込み、歩行者路両側の植栽帯と連続して広い帯状の緑地帯を形成

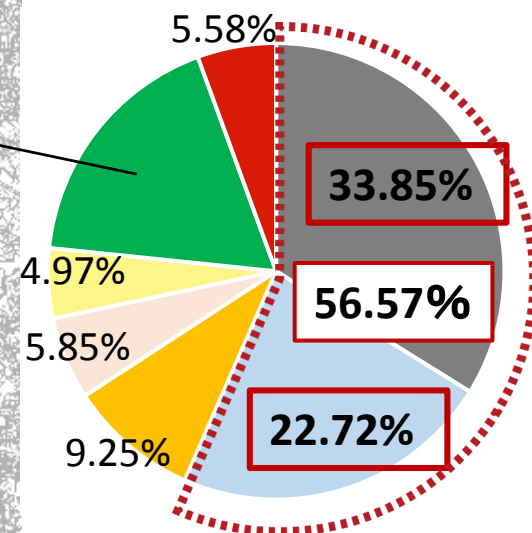
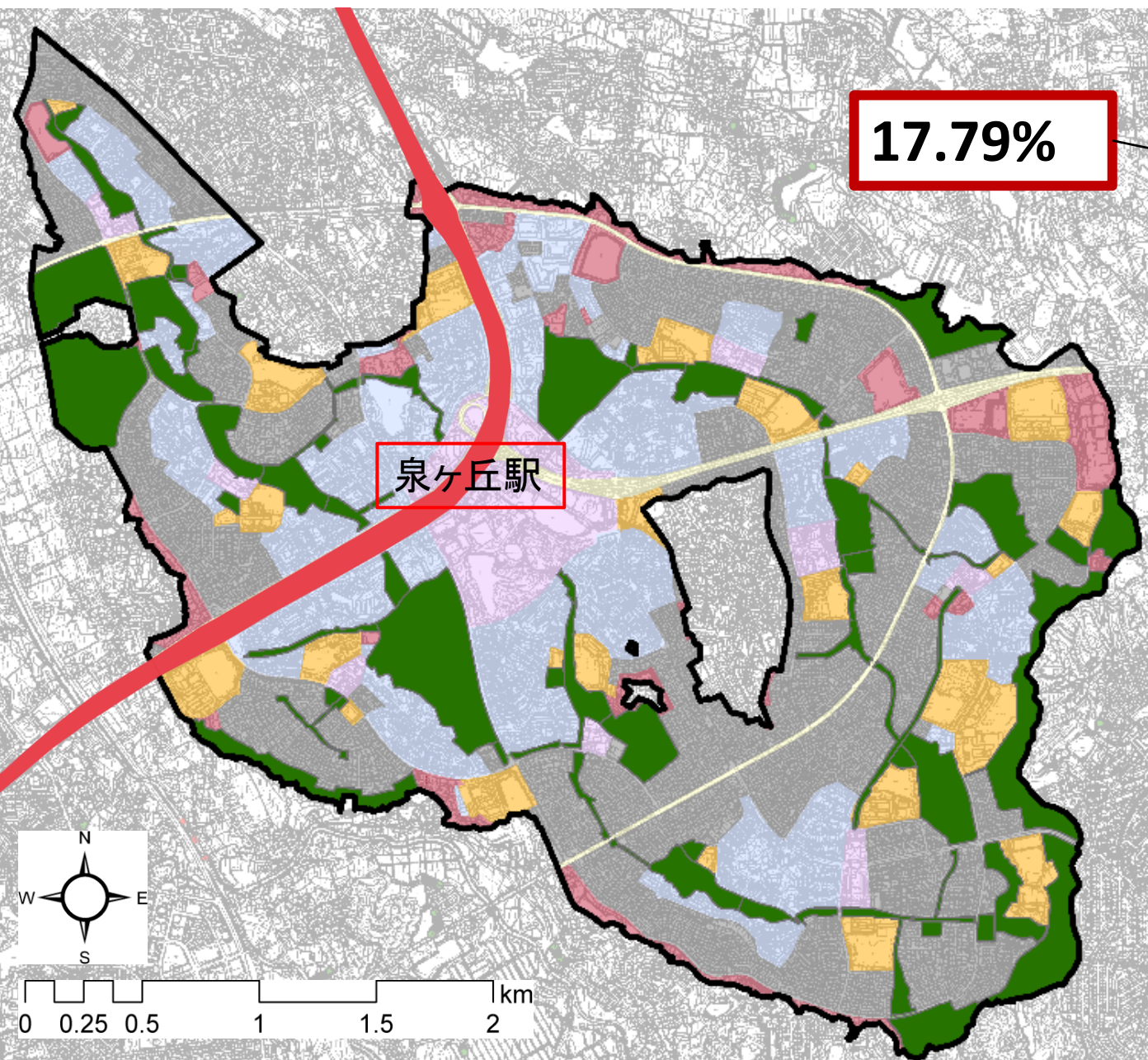


緑地計画の思想

- ・大きな造成改変をせず、既存の丘陵地の自然状況に極力沿った計画を行う
- ・公園緑地と集合住宅地内に既存林を保存し配置する
- ・緑道は各公園緑地をつなぐだけでなく、生活動線も考慮しながら公園や保存林、水面も含めた一体的な緑のネットワークを形成
- ・緑道内に既存林を取り込み、歩行者路両側の植栽帯と連続して広い帯状の緑地帯を形成



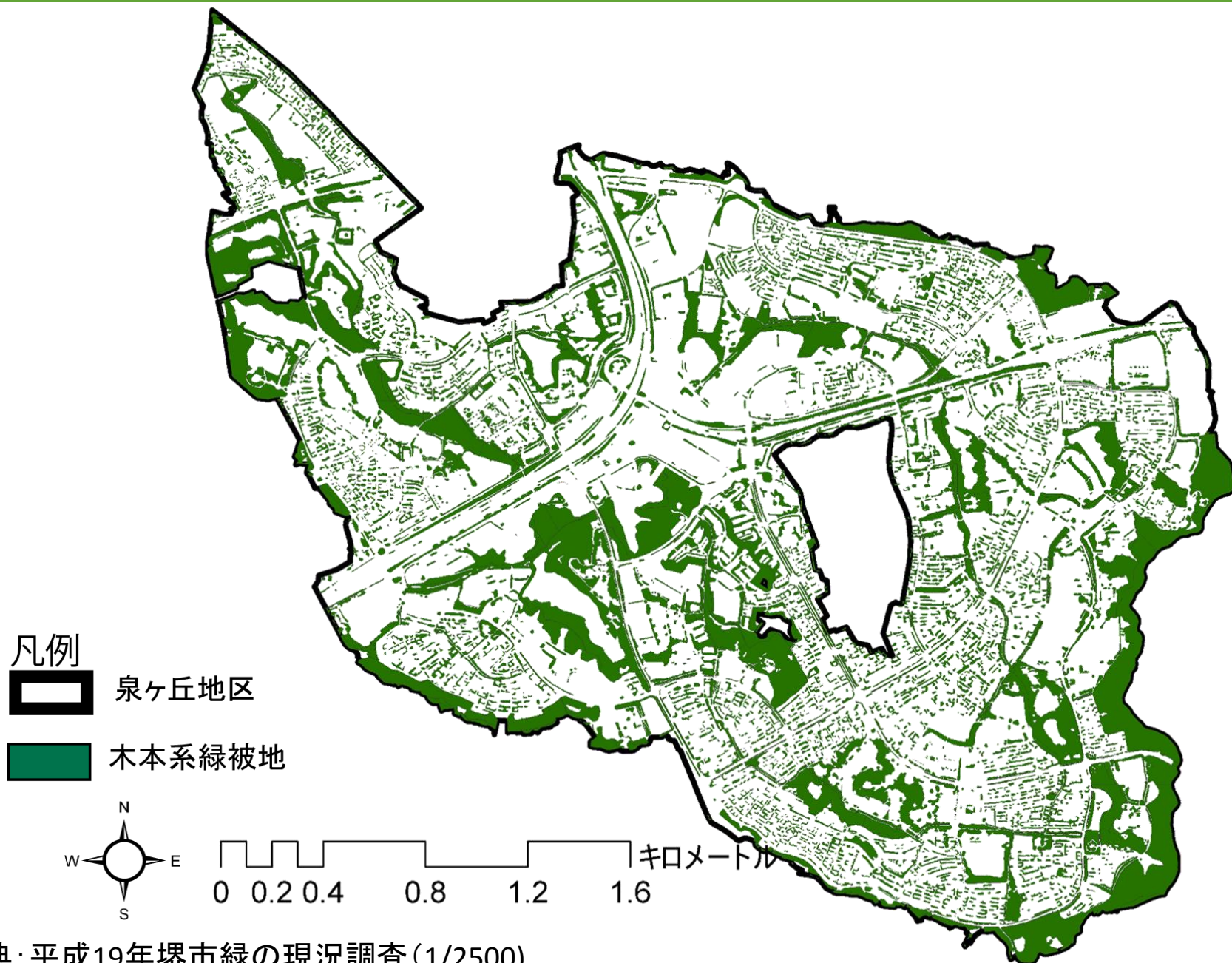
土地利用特性の把握



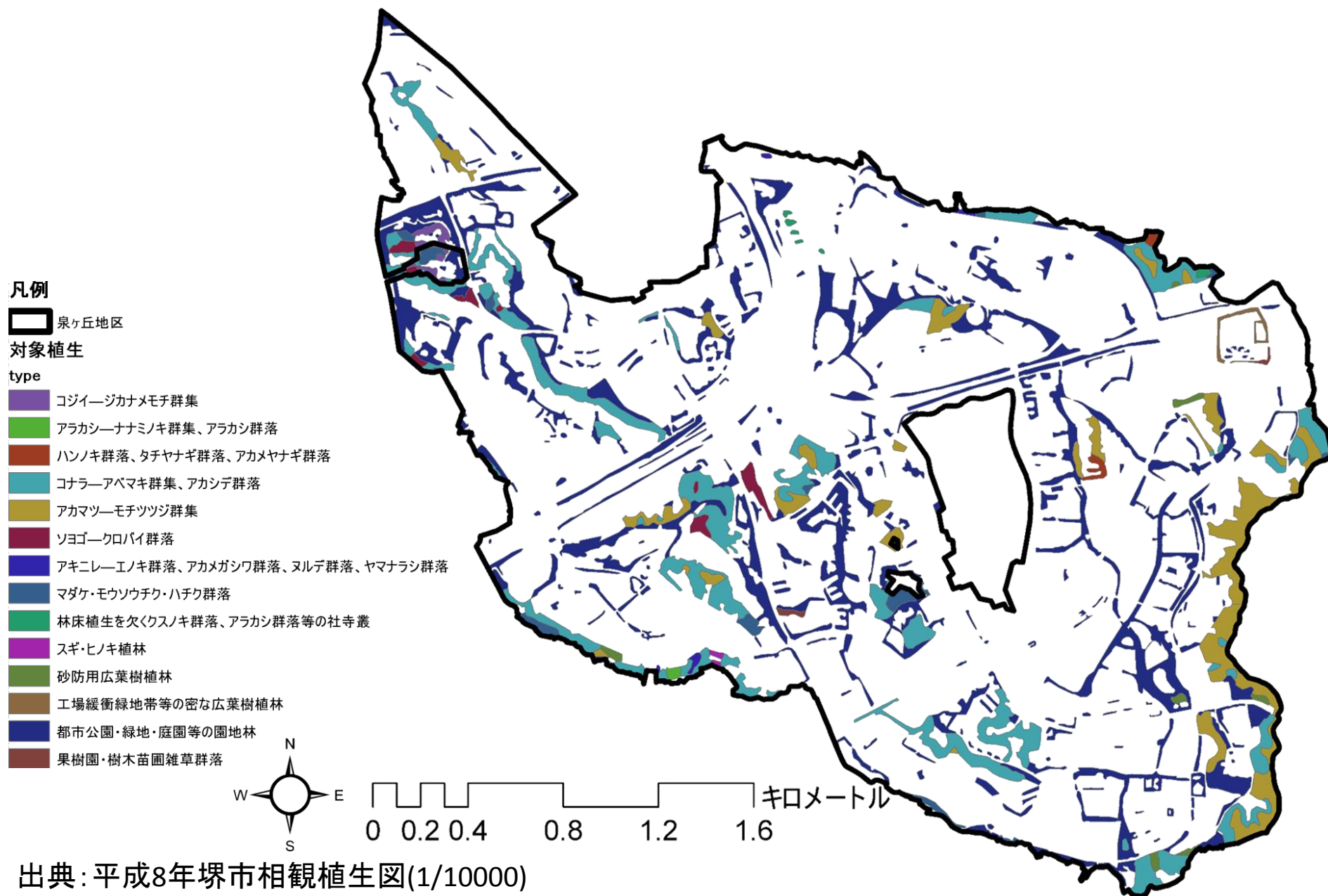
凡例

- 泉ヶ丘地区
- その他
- 公園・緑地
- 商業施設
- 戸建住宅
- 教育施設
- 道路
- 集合住宅

対象緑被地の設定



対象緑被地の設定



対象緑被地の設定

凡例



対象植生

type

	コジイー・ジカナメモチ群集
	アラカシー・ナナミノキ群集、アラカシ群落
	ハンノキ群落、タチヤナギ群落、アカメヤナギ群落
	コナラー・アベマキ群集、アカシデ群落
	アカマツ・モチツツジ群集
	ソゴークロバイ群落
	アキニレー・エノキ群落、アカメガシワ群落、ヌルデ群落、ヤマナラシ群落
	マダケ・モウソウチク・ハチク群落
	林床植生を欠くスノキ群落、アラカシ群落等の社寺叢
	スギ・ヒノキ植林
	砂防用広葉樹植林
	工場緩衝緑地帯等の密な広葉樹植林
	都市公園・緑地・庭園等の園地林
	果樹園・樹木苗圃雑草群落

自然林

二次林

植林

保存林















対象緑被地の設定

凡例

 泉ヶ丘地区

対象植生

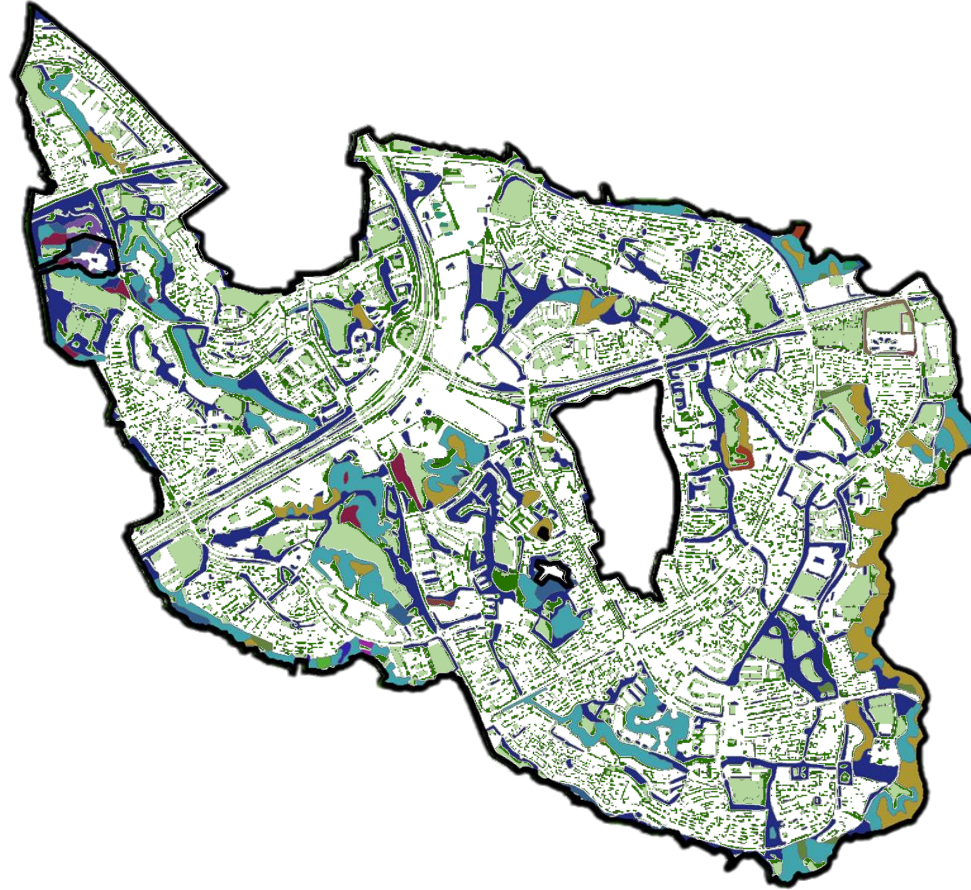
type

-  コジイー・ジカナメモチ群集
-  アラカシー・ナナミノキ群集、アラカシ群落
-  ハンノキ群落、タチヤナギ群落、アカメヤナギ群落
-  コナラー・アベマキ群集、アカシデ群落
-  アカマツ・モチツツジ群集
-  ソゴークロバイ群落
-  アキニレー・エノキ群落、アカメガシワ群落、ヌルデ群落、ヤマナラシ群落
-  マダケ・モウソウチク・ハチク群落
-  林床植生を欠くスノキ群落、アラカシ群落等の社寺叢
-  スギ・ヒノキ植林
-  砂防用広葉樹植林
-  工場緩衝緑地帯等の密な広葉樹植林
-  都市公園・緑地・庭園等の園地林
-  果樹園・樹木苗圃雑草群落

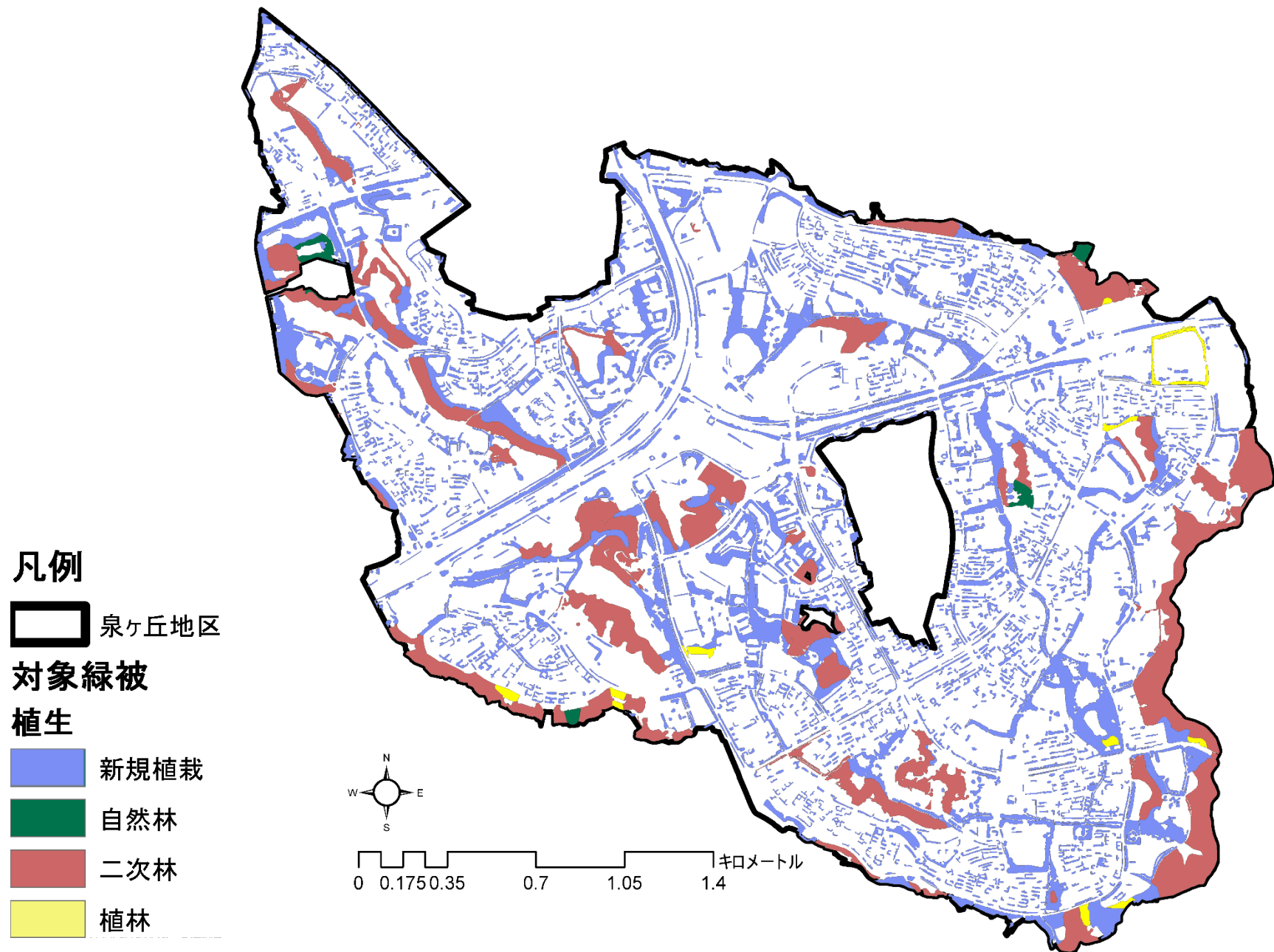


新規植栽

対象緑被地の設定

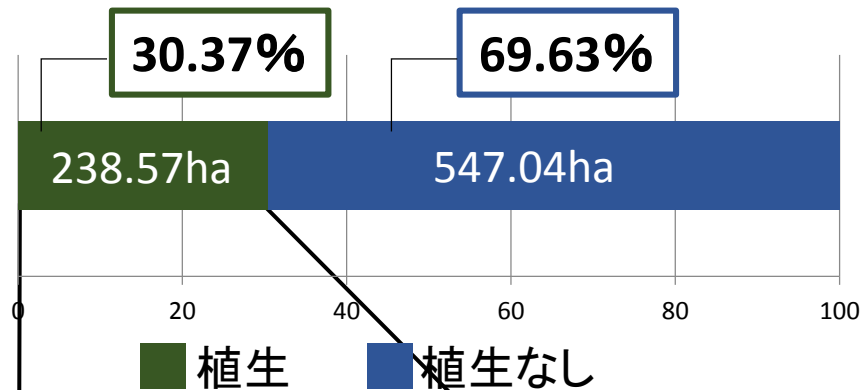


対象緑被地の設定

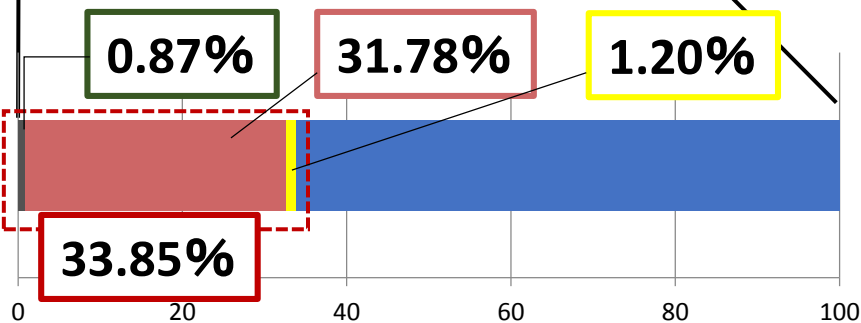


対象緑被地の特性

■ 泉ヶ丘地区における植生割合



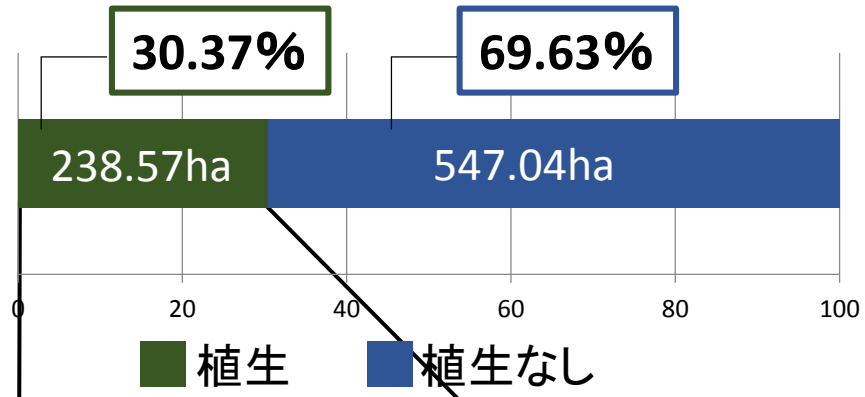
■ 植生形態別割合



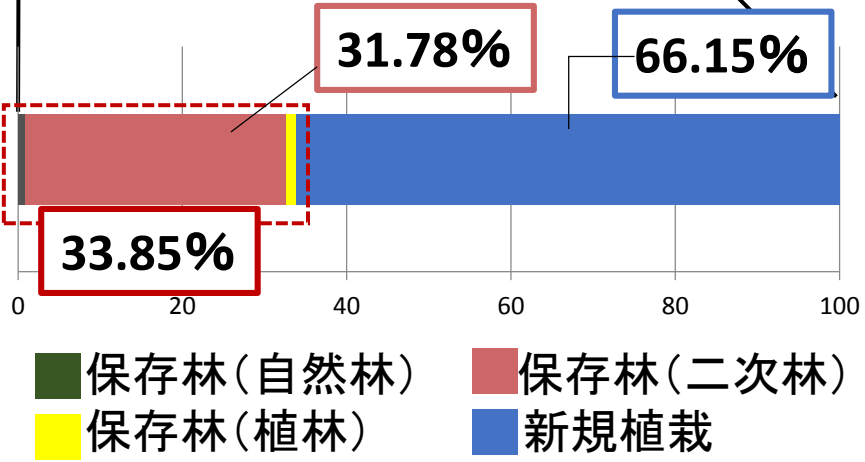
- 保存林(自然林)
- 保存林(二次林)
- 保存林(植林)
- 新規植栽

対象緑被地の特性

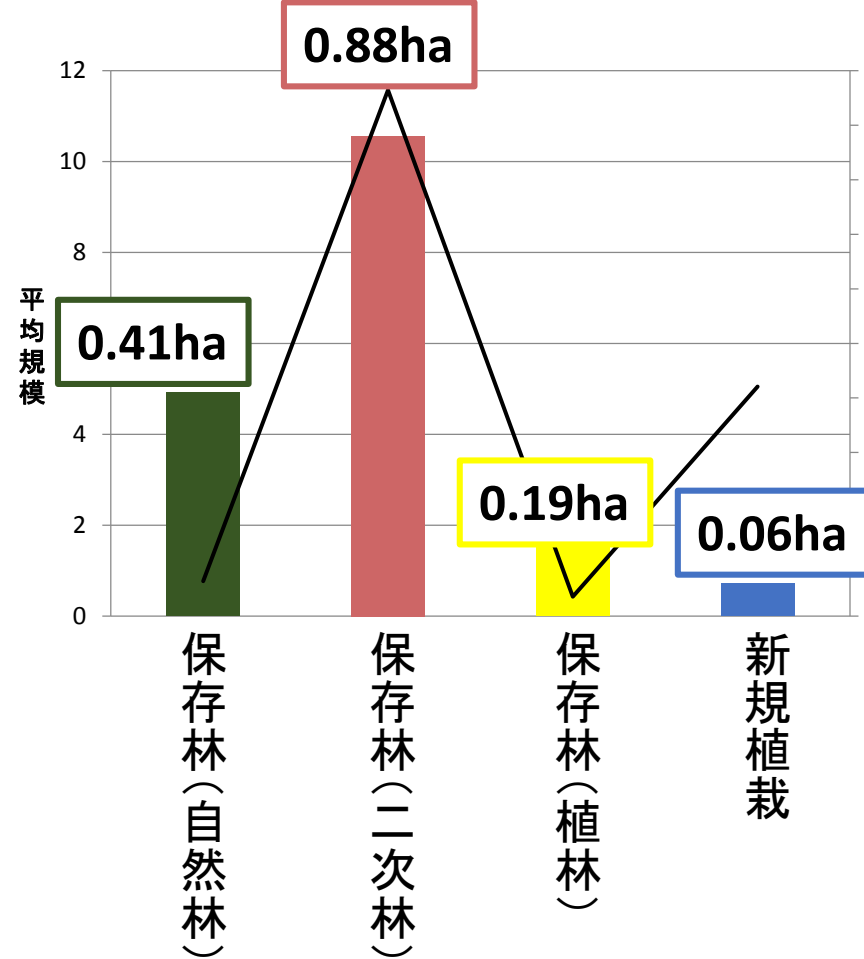
■ 泉ヶ丘地区における植生割合



■ 植生形態別割合



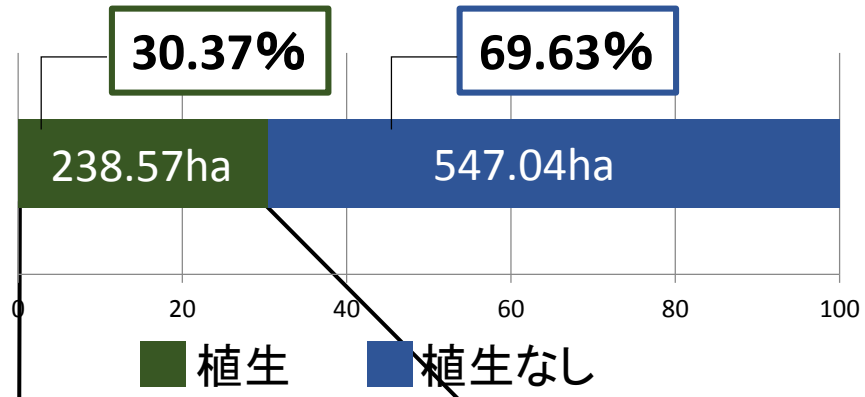
■ 規模特性



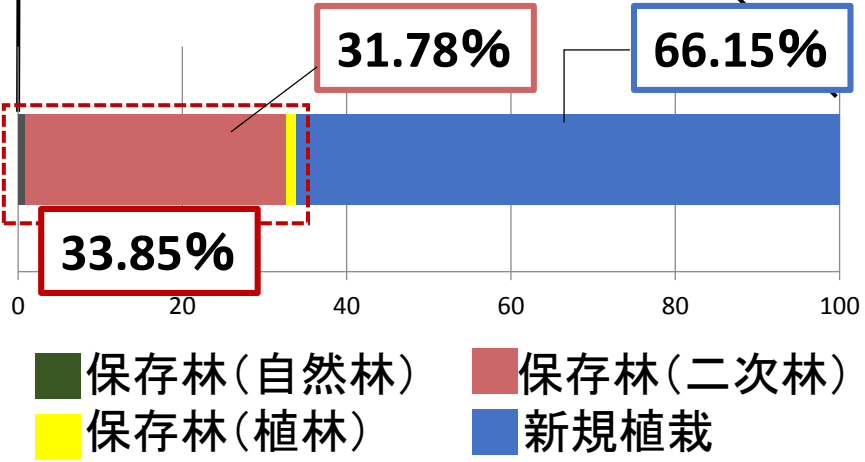
□ 平均規模(ha) — 最大規模(ha)

対象緑被地の特性

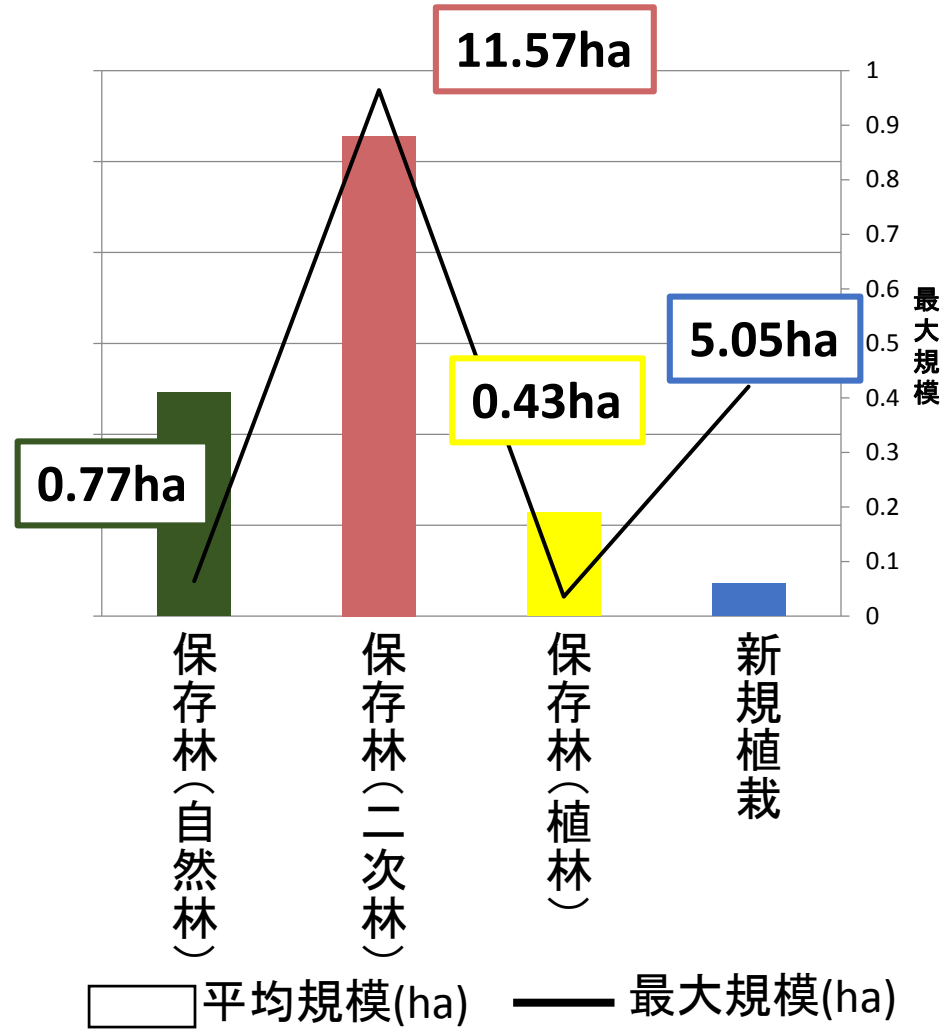
■ 泉ヶ丘地区における植生割合



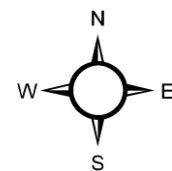
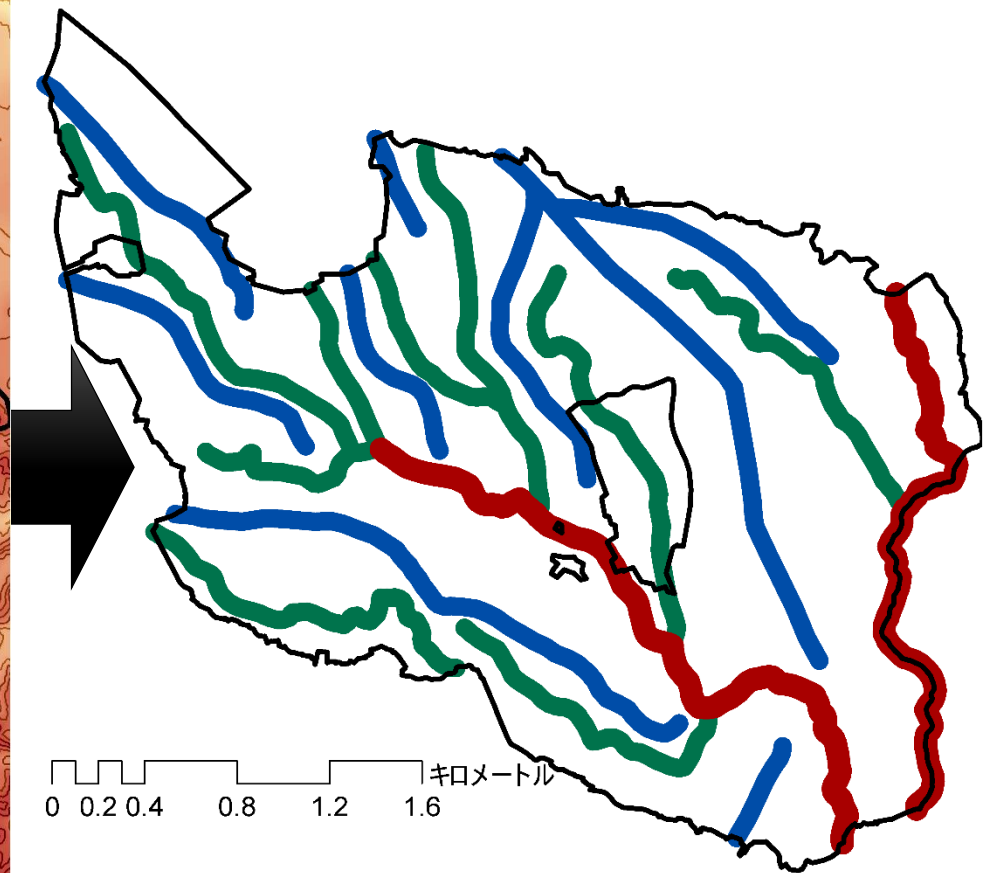
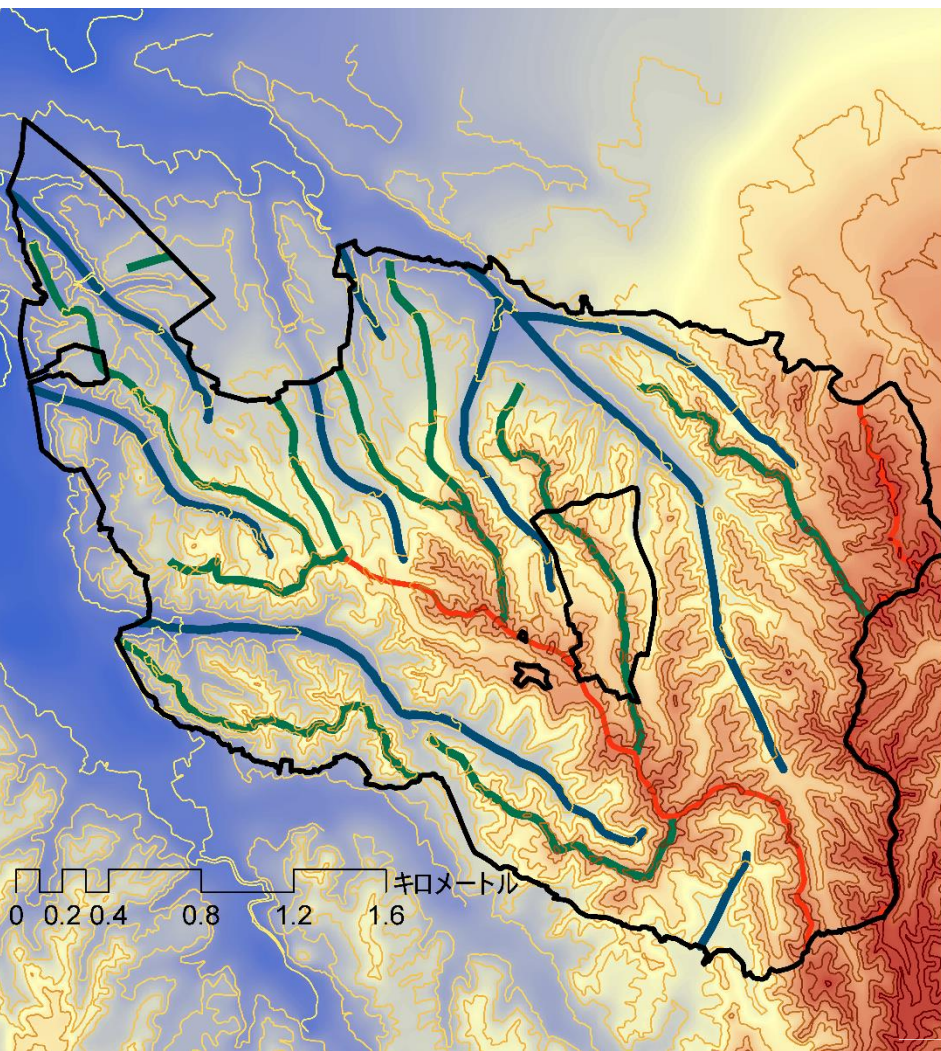
■ 植生形態別割合



■ 規模特性



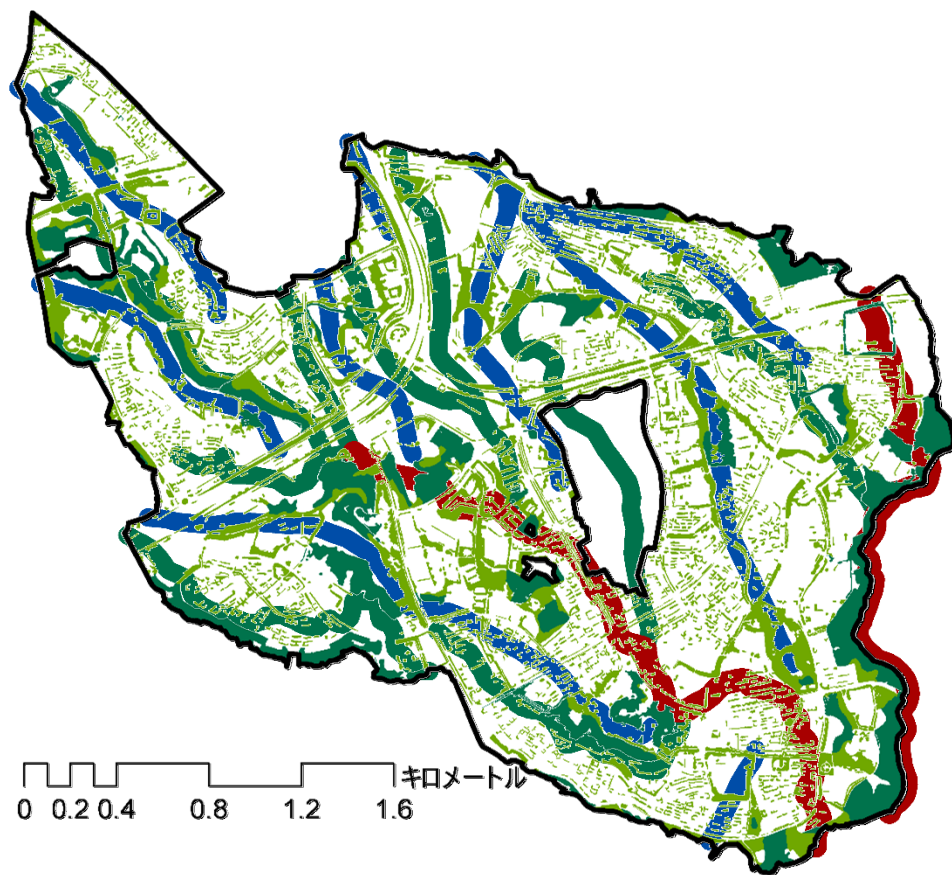
地形構造の把握



- 主尾根域 (Main Ridge Area) - Red line
- 尾根域 (Ridge Area) - Green line
- 谷筋域 (Valley Area) - Blue line

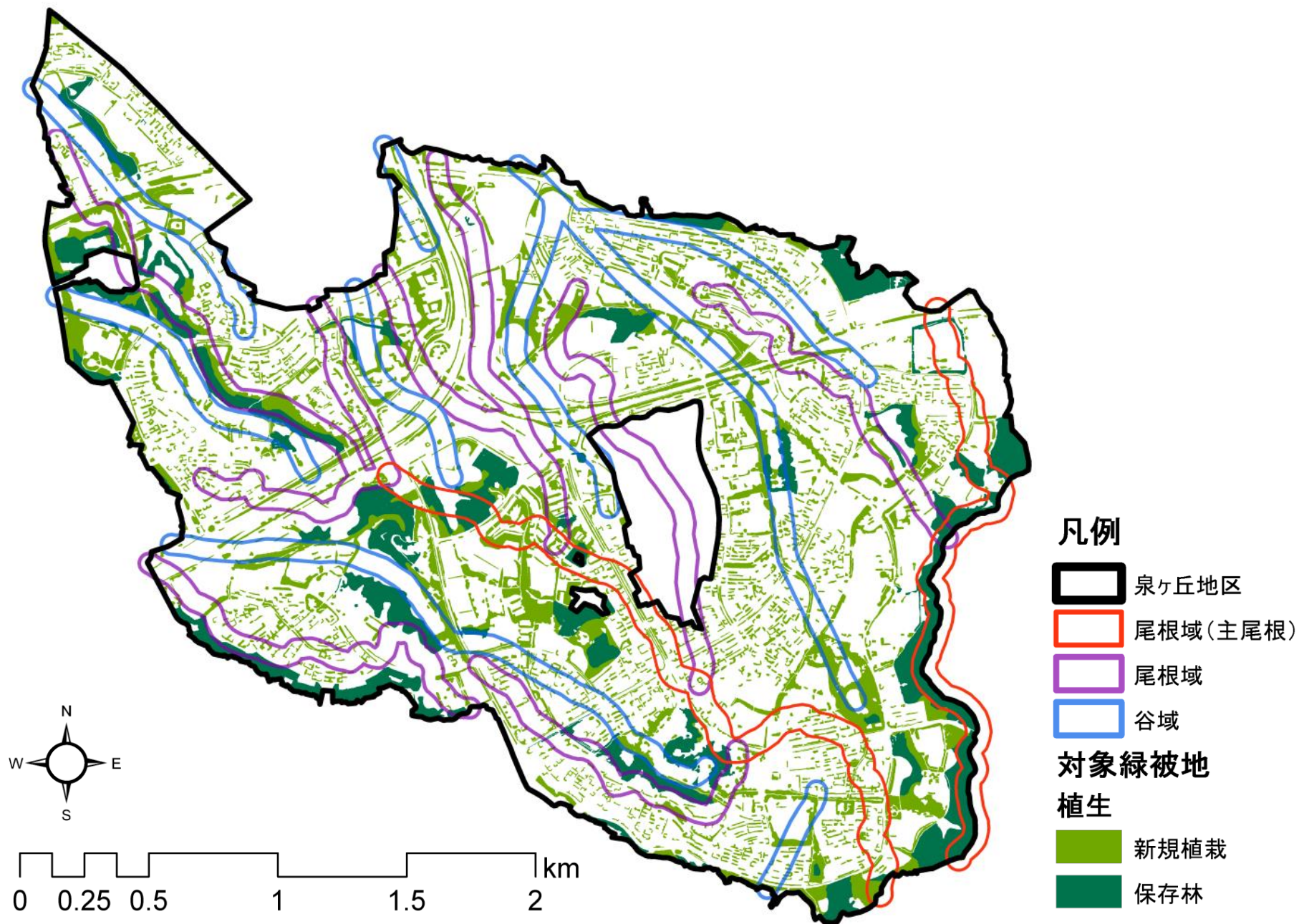
出典: 昭和36年大阪府標高図 (1/2500)

地形構造の把握



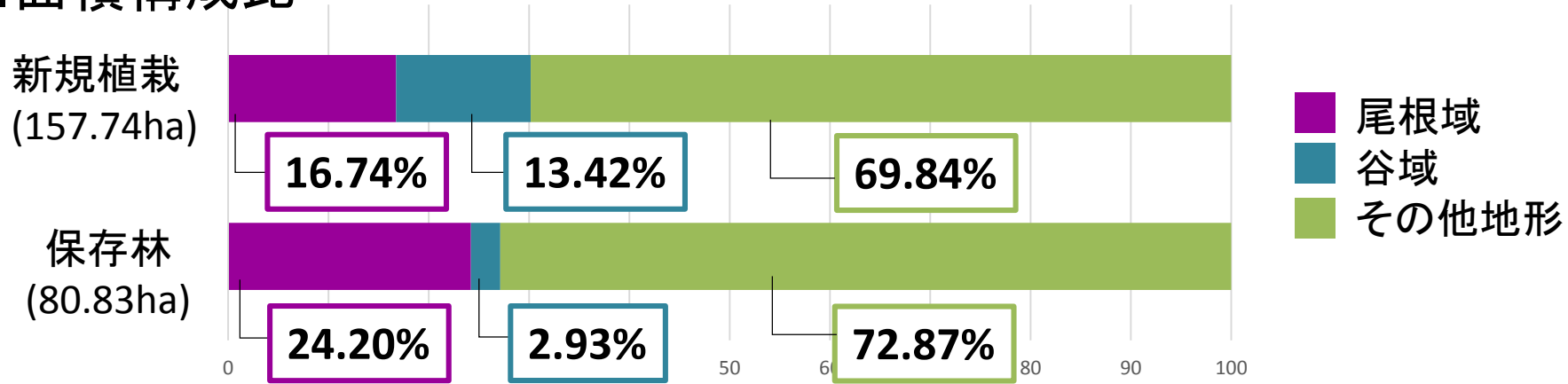
出典: 昭和36年大阪府標高図(1/2500)

地形構造に基づく評価

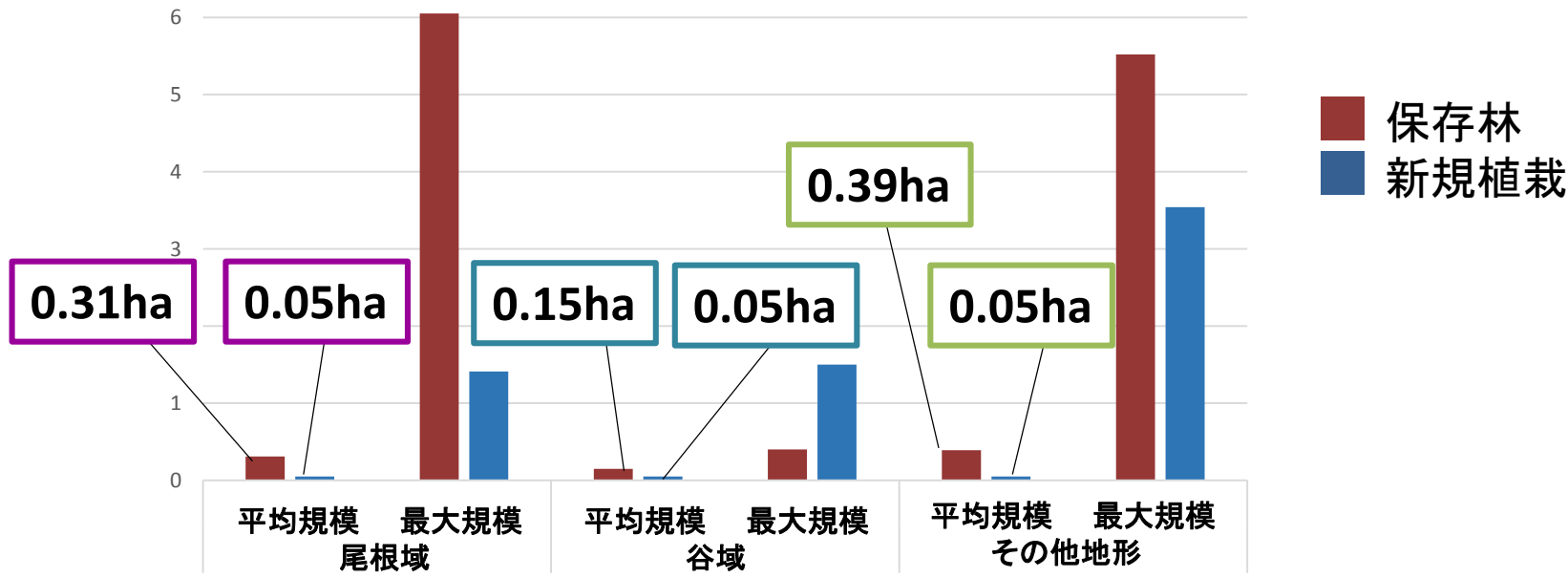


地形構造に基づく評価

■ 面積構成比

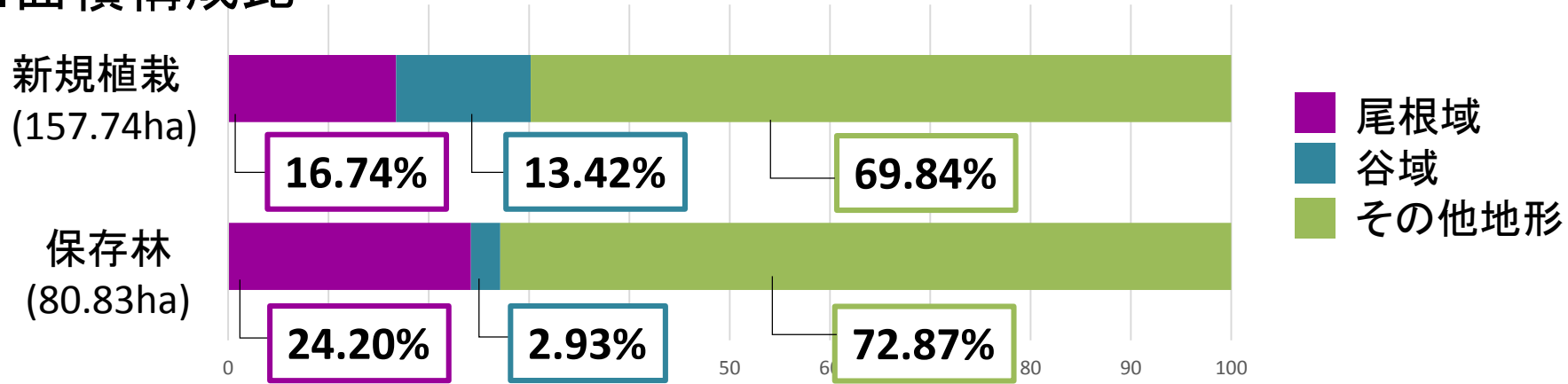


■ 規模特性

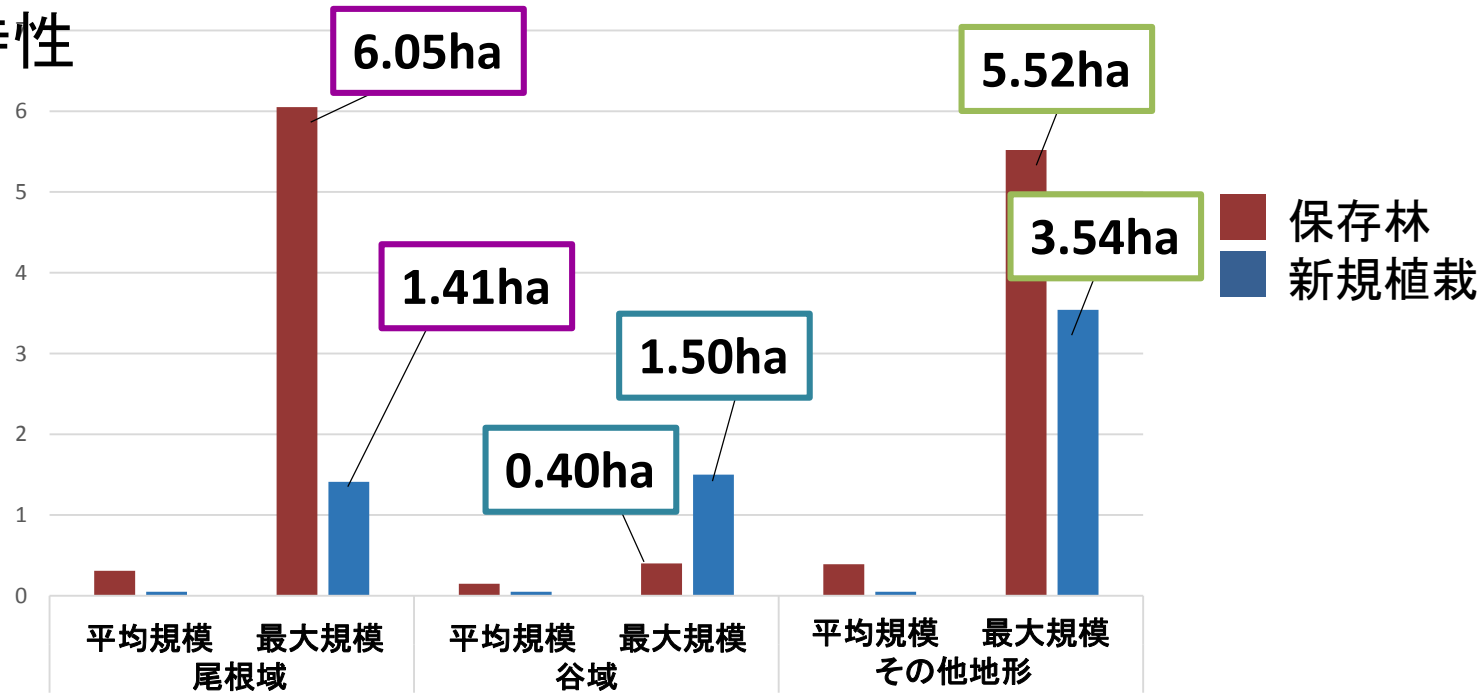


地形構造に基づく評価

面積構成比



規模特性



土地利用に基づく評価



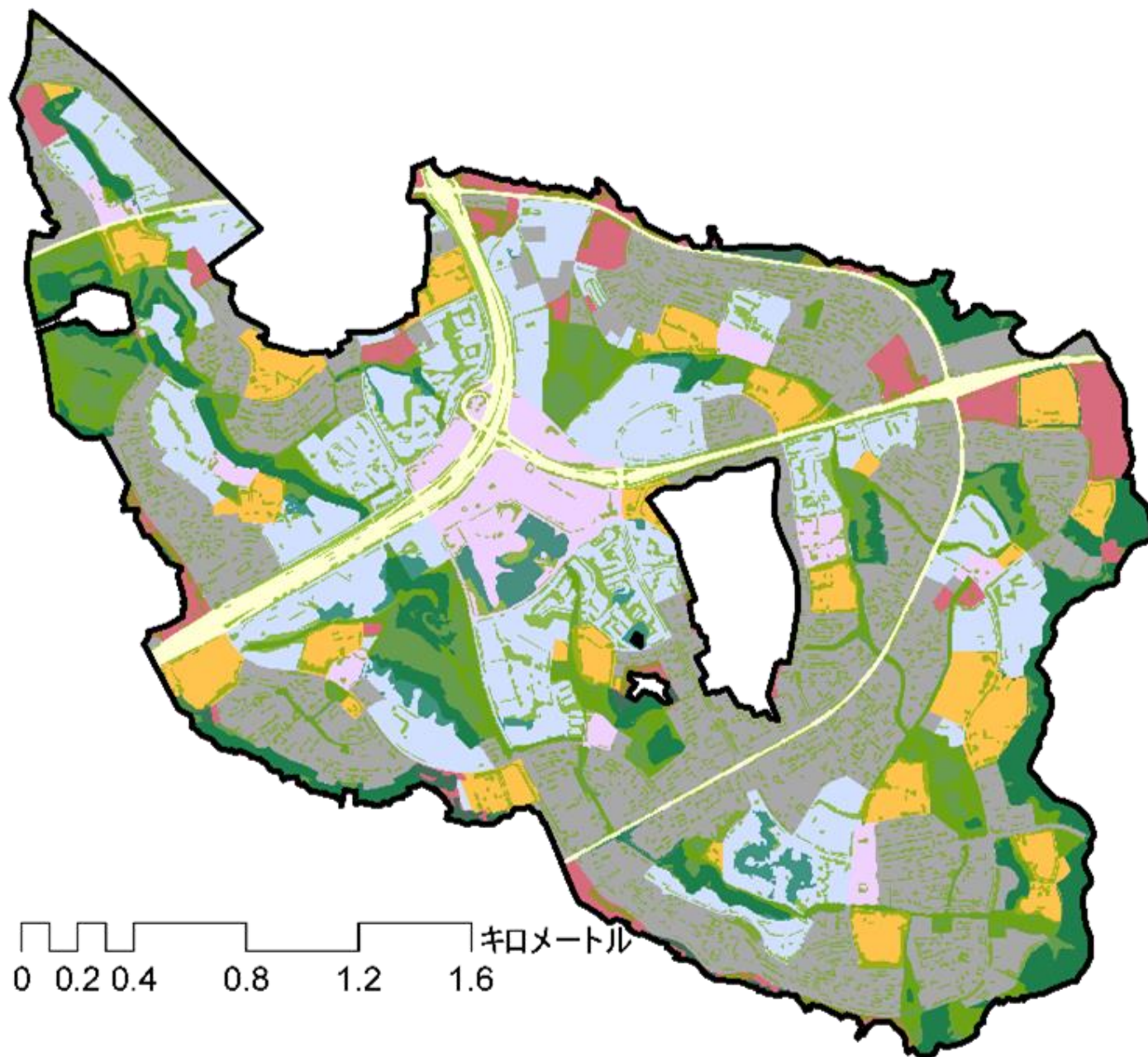
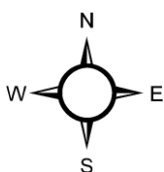
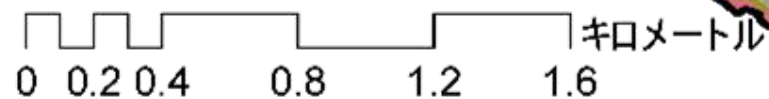
土地利用に基づく評価

凡例



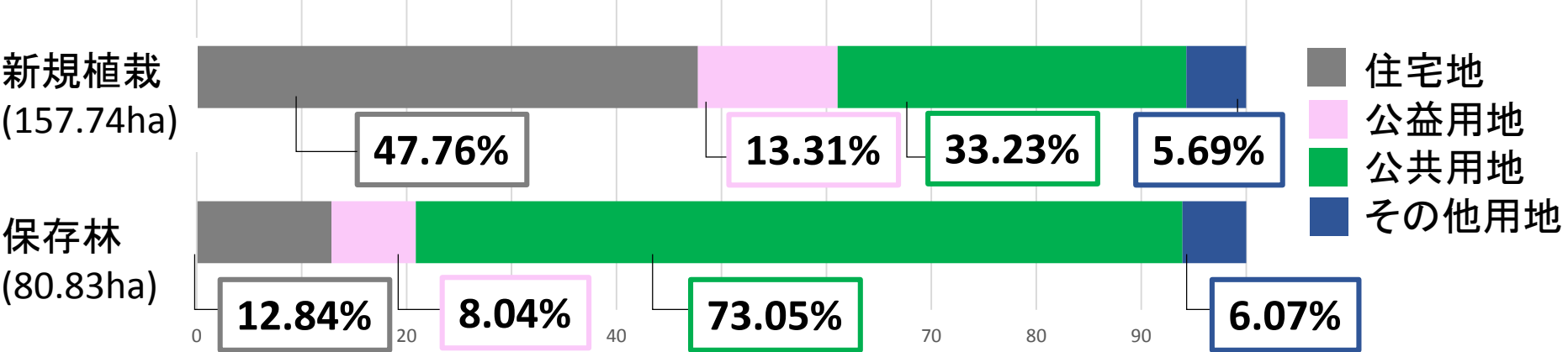
対象緑被地

植生

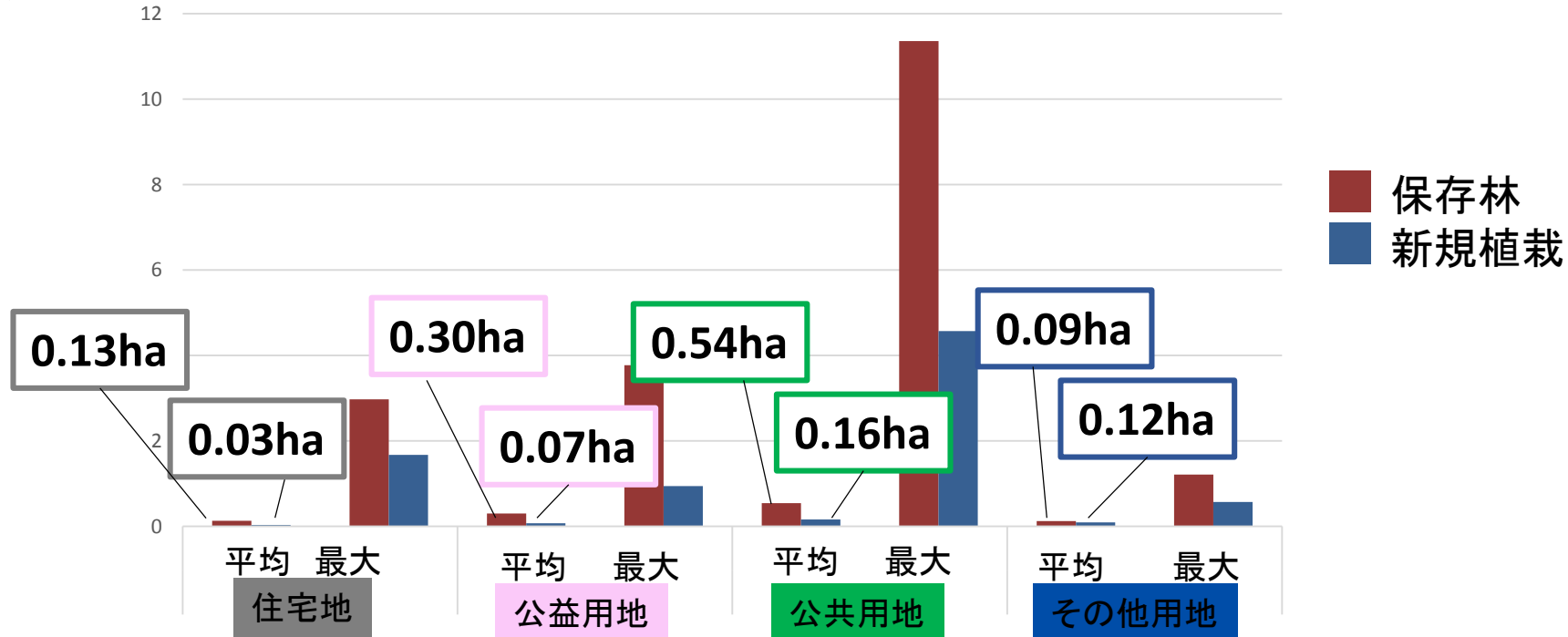


土地利用に基づく評価

■面積構成比

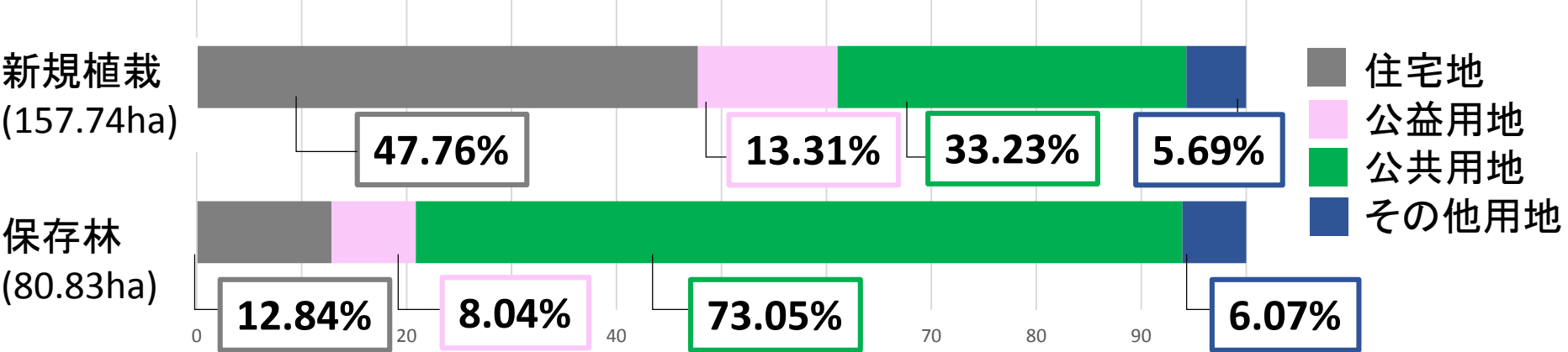


■規模特性

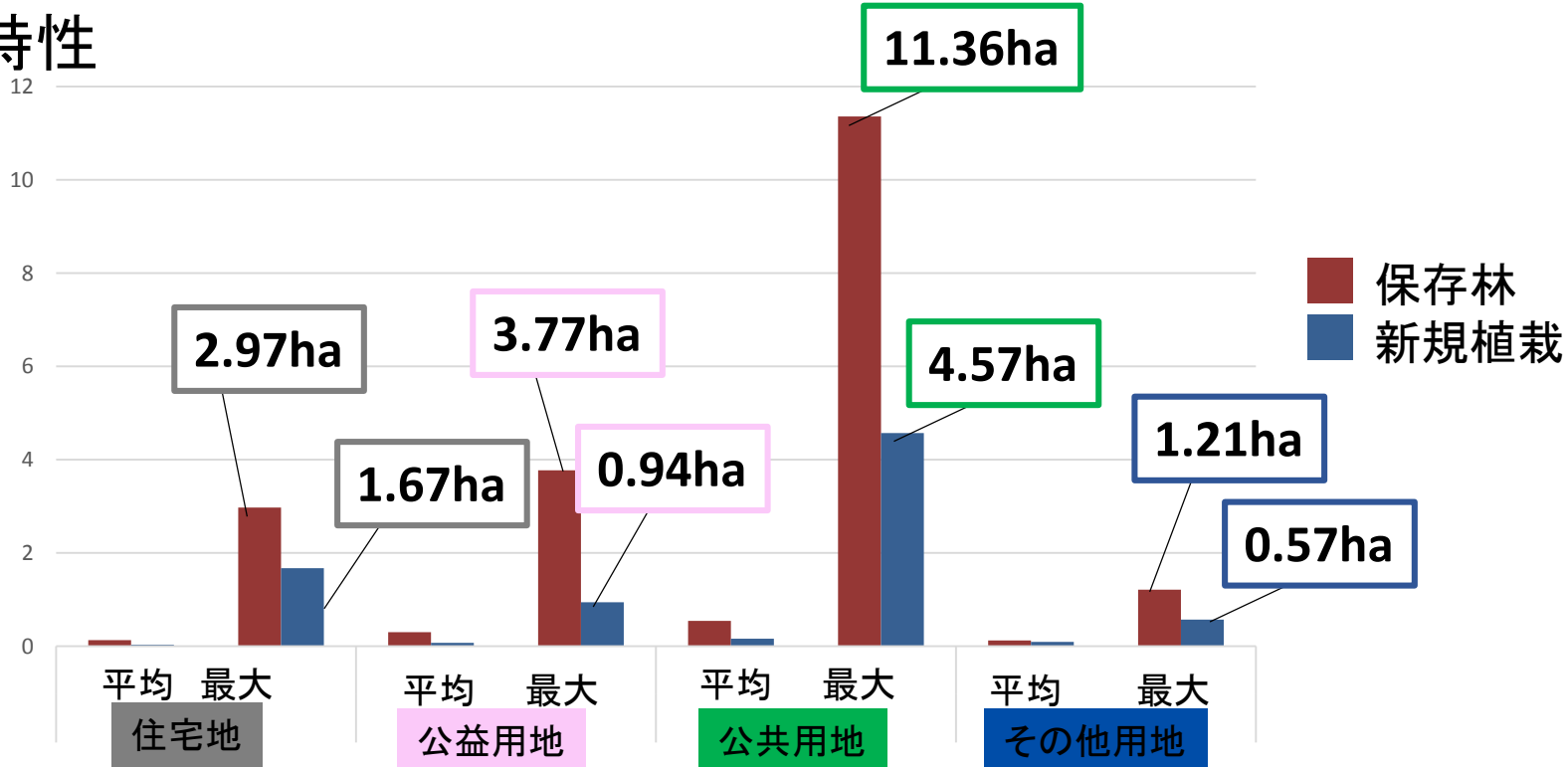


土地利用に基づく評価

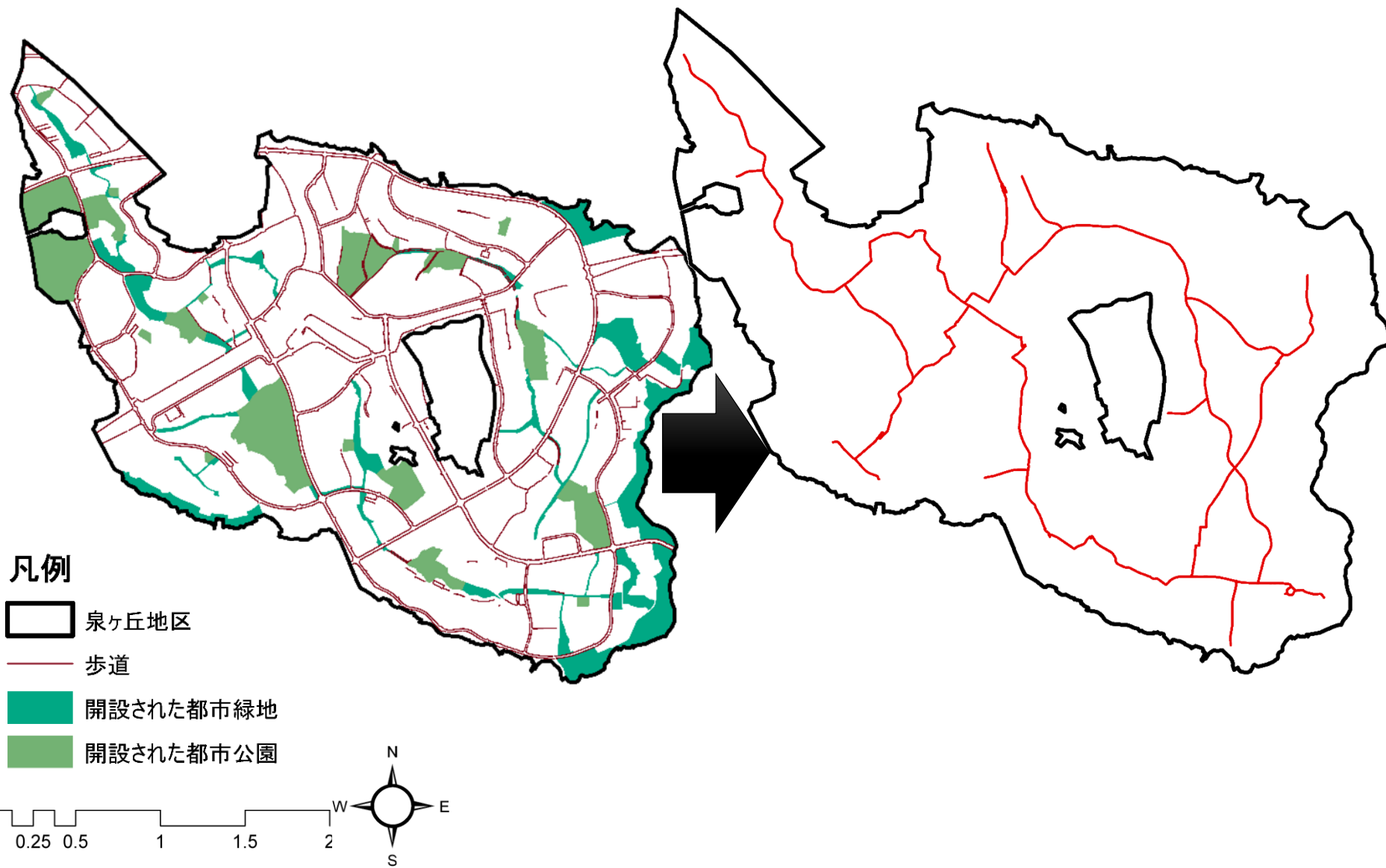
■面積構成比



■規模特性



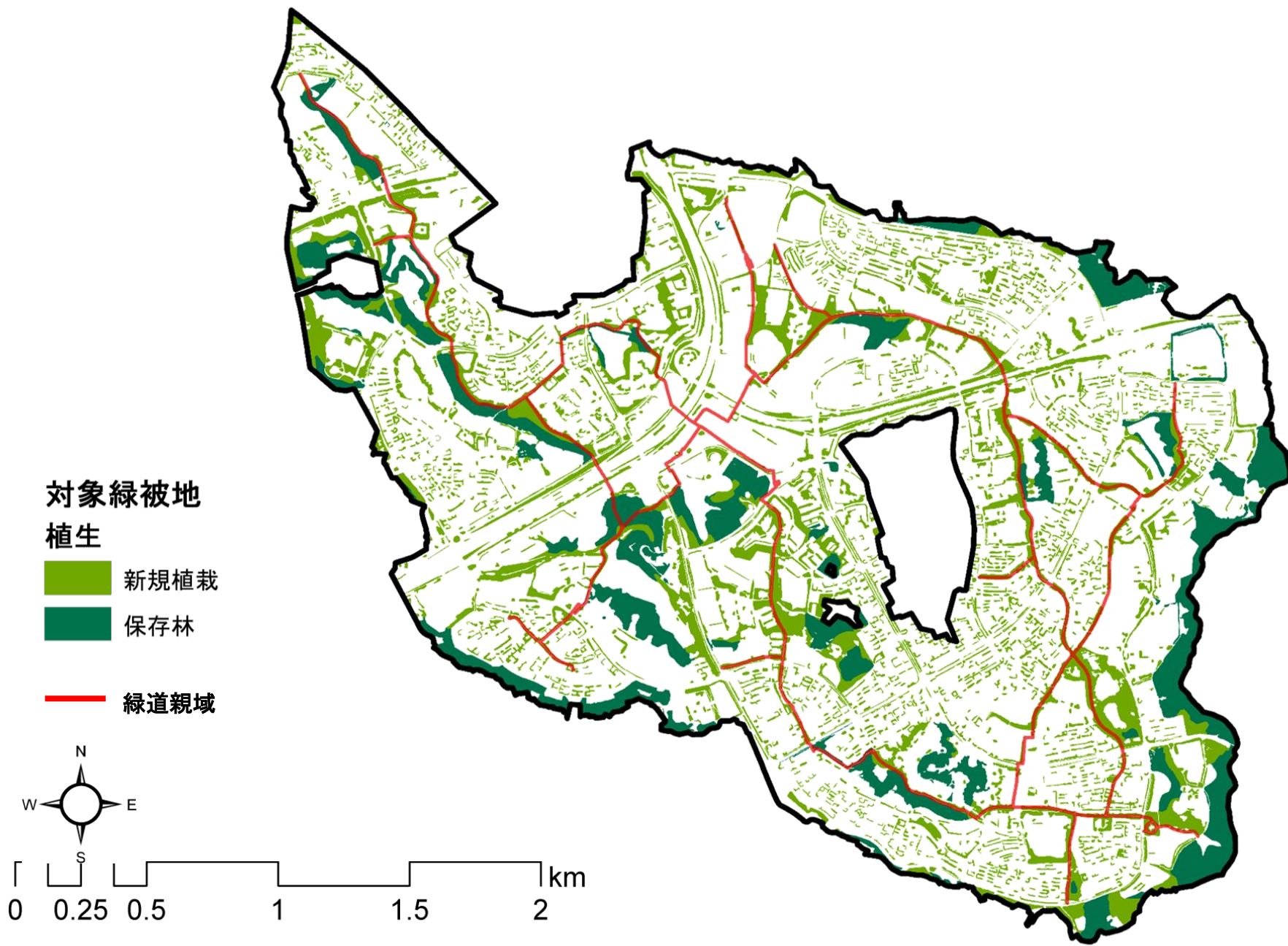
親密性に基づく評価



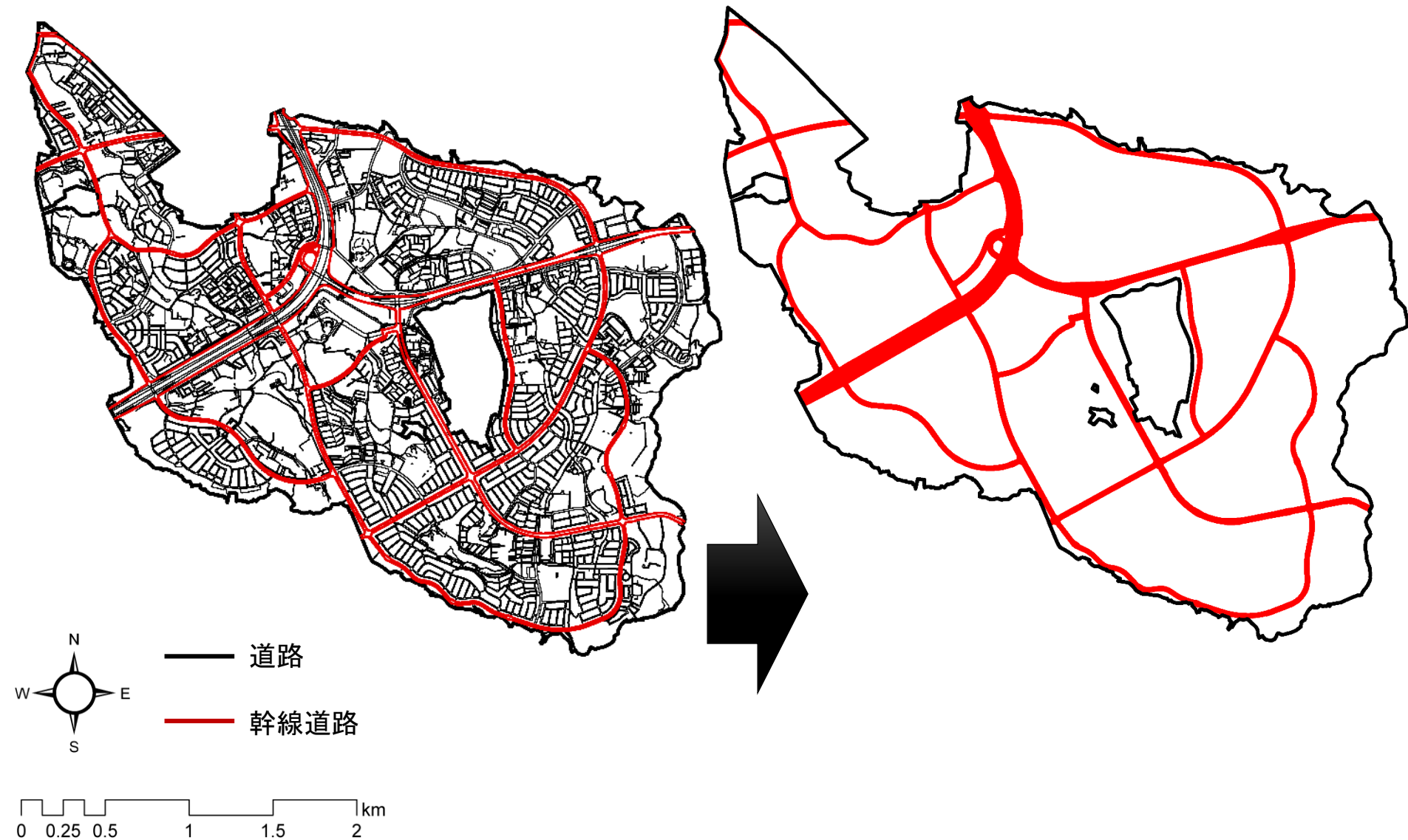
親密性に基づく評価



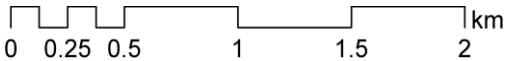
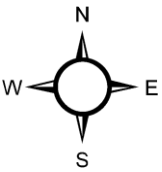
親密性に基づく評価



景観性に基づく評価



景観性に基づく評価

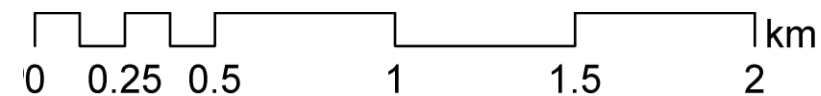
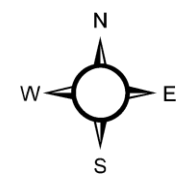
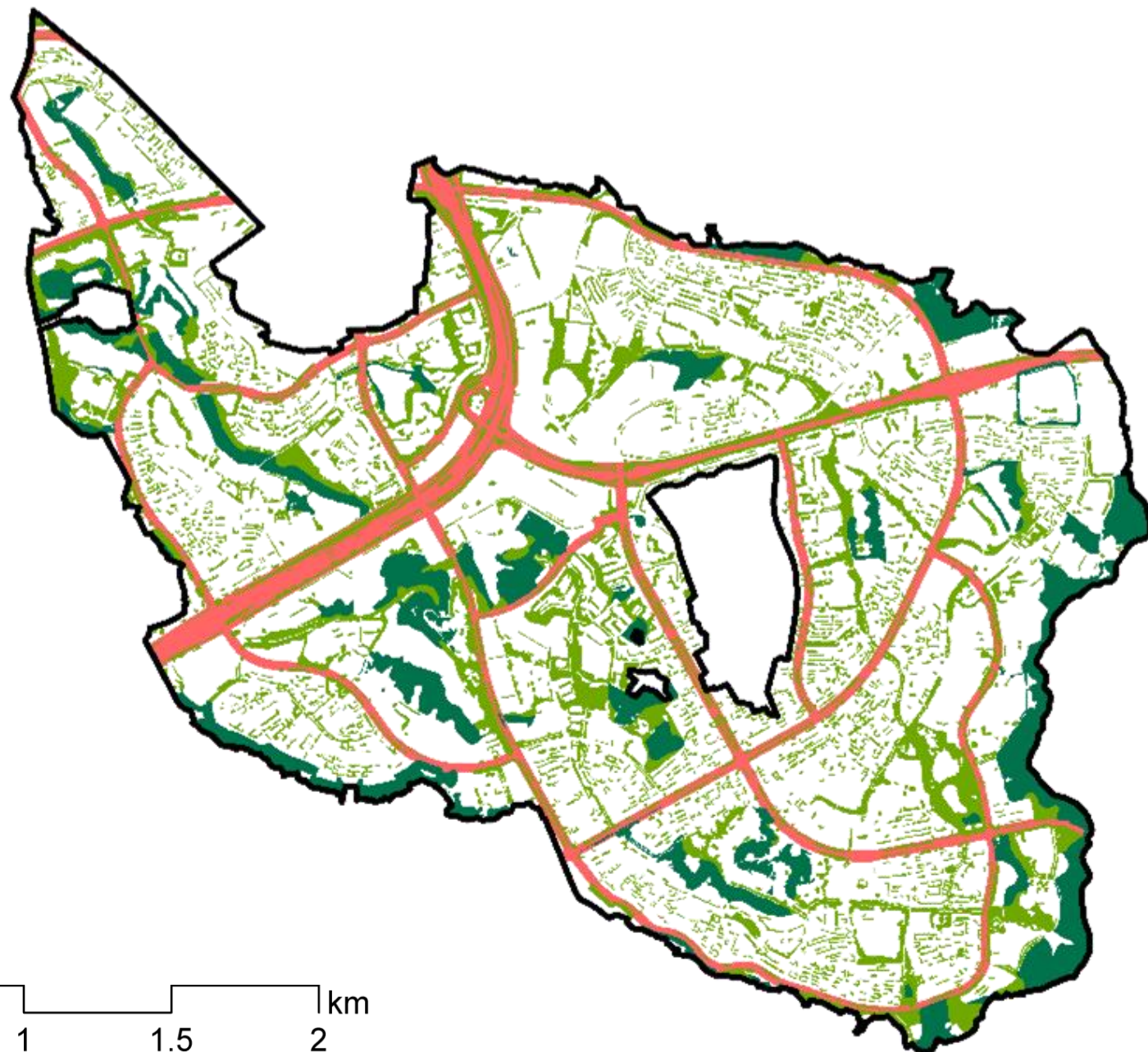


景観性に基づく評価

対象緑被地
植生

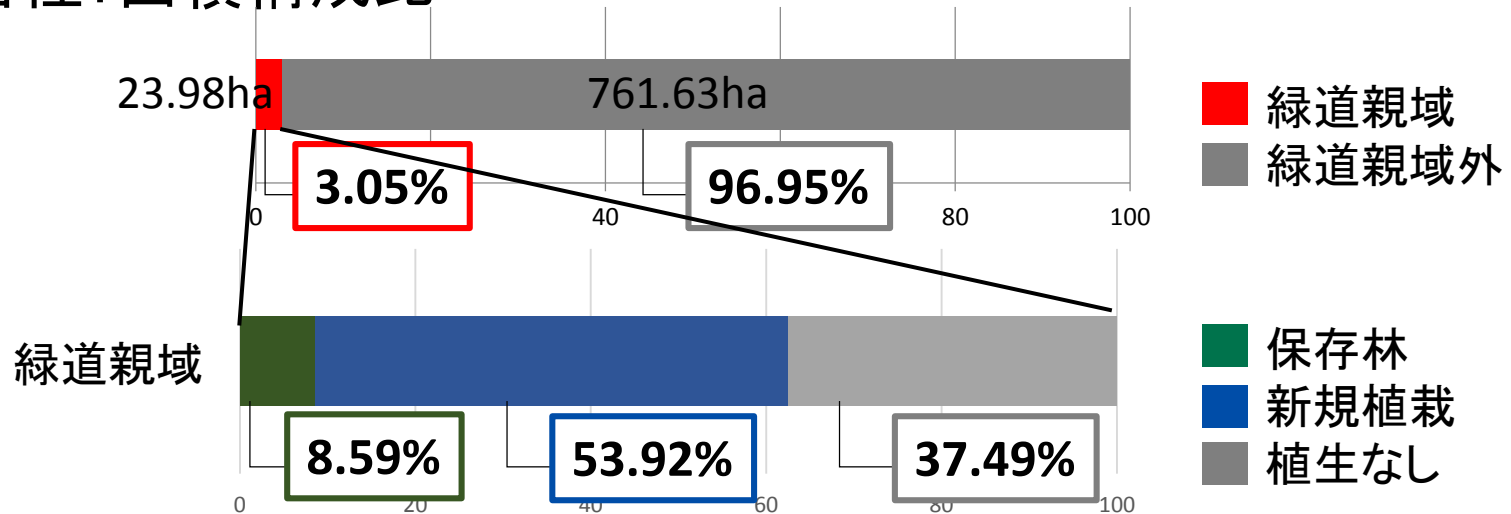
新規植栽
保存林

道路景域

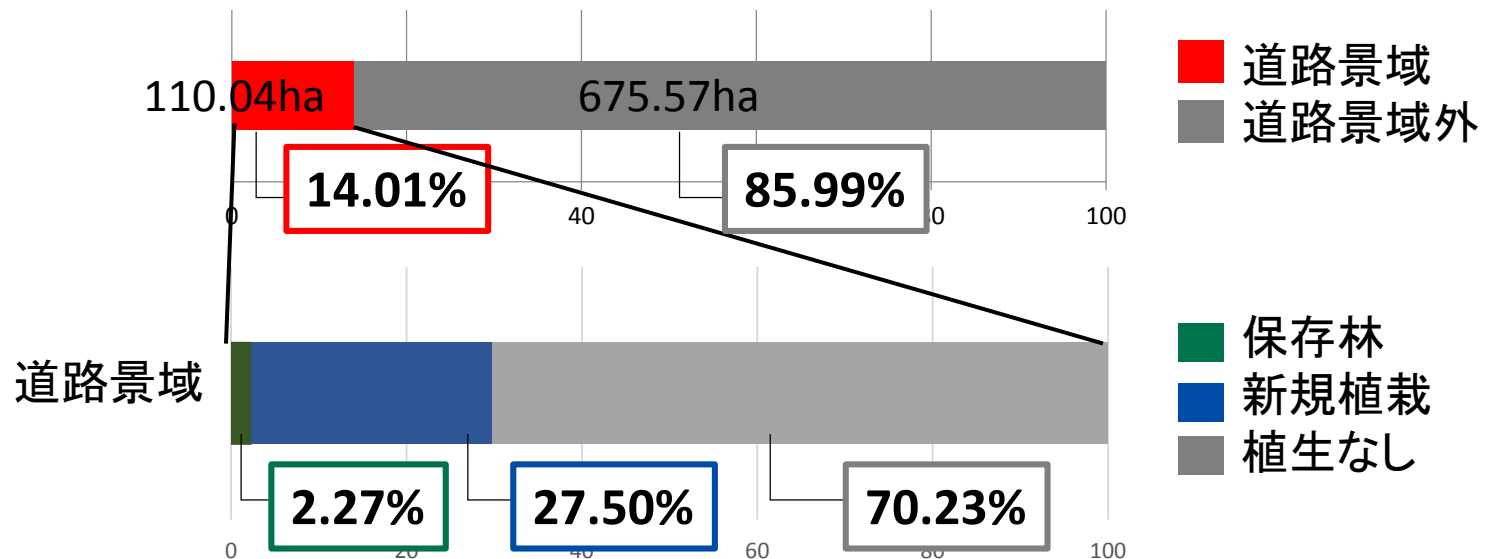


親密性・景観性に基づく評価

■ 親密性：面積構成比



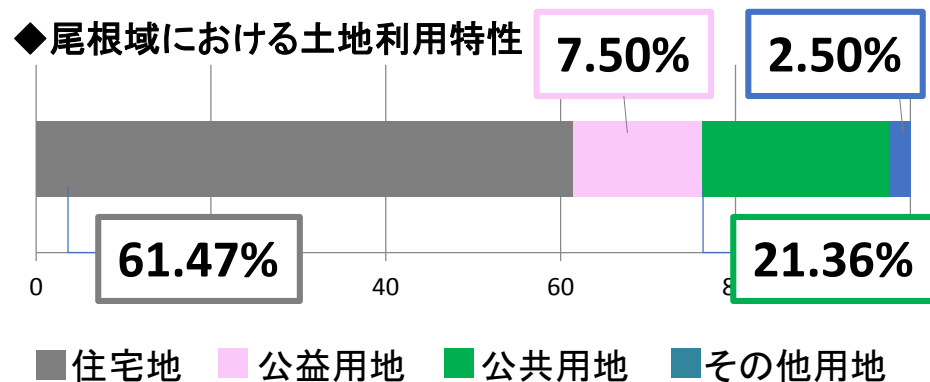
■ 景観性：面積構成比



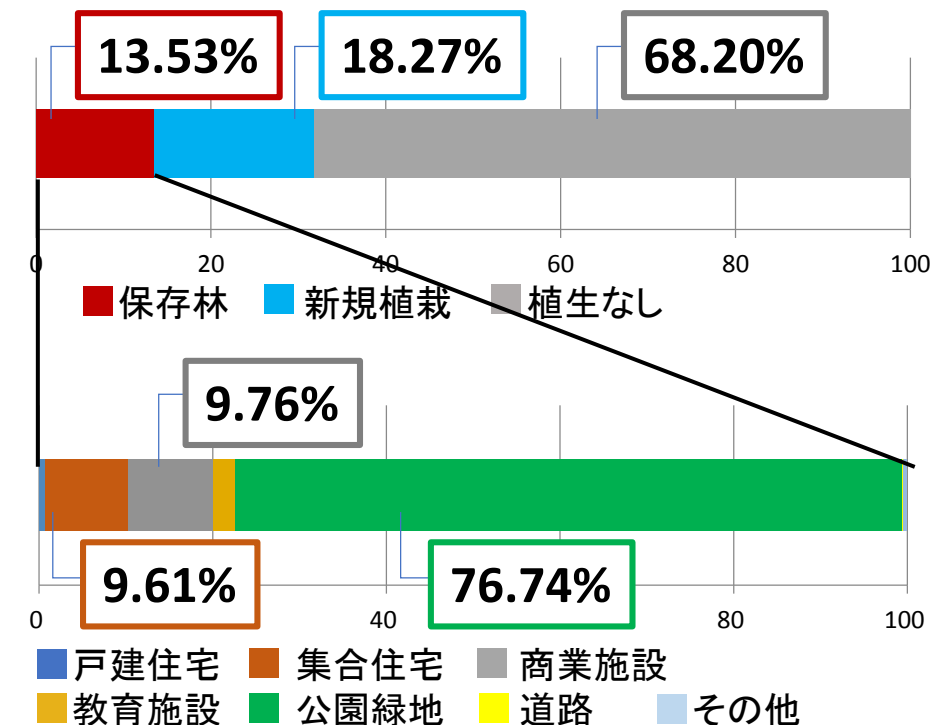
緑地計画思想の検証

①尾根域で公園緑地に取り入れられた保存林の検証

◆尾根域における土地利用特性

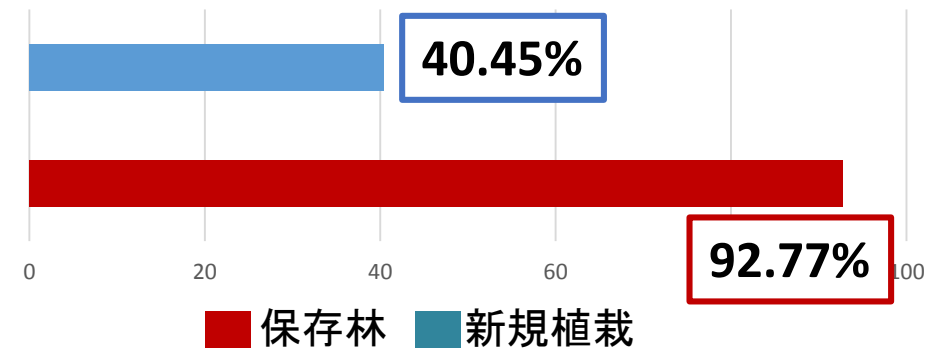


◆尾根域における植生特性

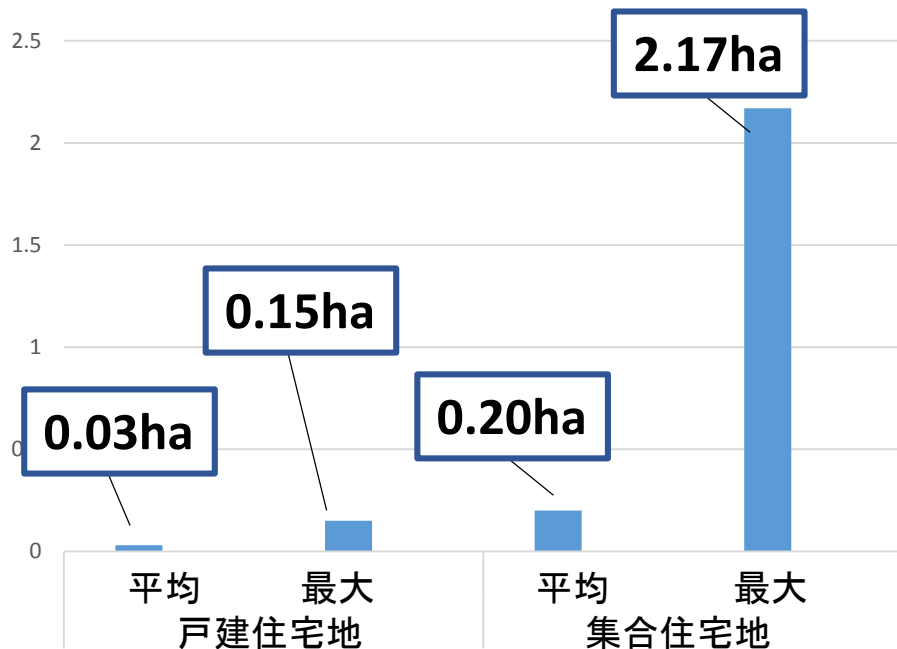


②集合住宅地内に取り入れられた保存林の検証

◆住宅地の植生の内集合住宅地に位置するもの



◆住宅地の植生の内集合住宅地に位置するもの



グリーンインフラを構成する緑地ストックの評価と展望

■緑地の展望の評価

- ・建設時に積極的に残された保存林は現在でもまとまった規模で尾根域に多く継承されている
- ・体系的に配置された公園緑地によってそれらの緑被地が担保されている

⇒これらはグリーンインフラの再構築を図る際の骨格となる貴重な資産である

- ・一定の親密性や景観性は担保されているが、保存林はそれらに貢献していないため、新規植栽を貴重な緑地ストックとして位置付け、新規植栽と保存林の一体化や保存林の活用が求められる
- ・比較的小規模な新規植栽も保存林と同様に再評価し、小規模なまとまりをいかにネットワークを図るかが課題である



グリーンインフラを構成する緑地ストックの評価と展望

■今後の展望

ニュータウンでの自然再生や緑を基盤としたライフスタイルの確立等を支えるグリーンインフラの再構築には貴重な緑地ストックの活用と体系化、さらなる継承が必要である。

人口減少に伴い人との関わりが減少すると荒れた緑地として地域の負の資産へと変容する恐れがあるため、自然と共生した人々のライフスタイルと結び付けた活用や管理の在り方を探ることが大きな課題である。



ご清聴ありがとうございました